

| 課題 | 検討内容 |
|---|--|
| <p>海外において、AIを活用した診断・治療支援機器の開発が進んでいる現状を踏まえ、日本における重点開発領域の再検討が必要</p> | <p>① 現在までの国内外でのAI開発状況も踏まえた上で、平成29年のAI懇談会において定めた重点6領域(ゲノム医療、画像診断支援、診断・治療支援、医薬品開発、介護・認知症、手術支援)の絞り込みや、当該分野以外の領域設定の必要性について検討</p> <p>② 各医学会が主導して収集した各種医用画像データを患者単位で連結させることで、AI開発における付加価値が生じるため、収集したデータを1箇所を集約して連結させる方策を検討 (例:病理画像とCT)</p> |
| <p>医学会中心で医用画像を収集しているが、民間のAI開発に十分つながっていない</p> | <p>③ 収集した医用画像を、民間企業や研究機関に対して、公平性を担保しつつ広く提供する仕組みの構築(ルール作り)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 匿名化や同意のあり方 ○ 次世代医療基盤法の活用のあり方 ○ 医用画像の提供を受けられる機関の考え方 |

上記に加え、下記の事項についても議題として取り上げてはどうか。

- AI技術を活用した製品の医療機器該当性に関する考え方や審査時の評価指標の明確化について、別途、医薬・生活衛生局にて実施中の次世代医療機器評価指標事業において検討がなされており、検討状況等を適宜本コンソーシアムに報告
- 医師がAIを活用し判断した場合の責任の所在について、平成29年度 厚生労働行政推進調査事業の研究結果を報告し、意見を聴取
- 平成29年に開催した「保健医療分野におけるAI活用推進懇談会」にて開発を進めるべきとされた重点6領域(①ゲノム医療、②画像診断支援、③診断・治療支援、④医薬品開発、⑤介護・認知症、⑥手術支援)について、その進捗状況等を報告し、意見を聴取

スケジュール(案)

7月23日(月)

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月～

①開発重点領域の再検討

重点6領域の絞り込みや新たな領域設定について議論

平成31年度AMED研究、厚労科研費等の課題設定へ反映

新たな重点領域も含めた研究開始

②患者個人単位でのデータ連結

医療機関から収集したデータを、個人単位で繋ぐ仕組みを議論

平成30年度AMED研究にて実施 / コンソーシアムでの進捗確認

収集したデータの連結開始

③民間企業等へのデータ提供

民間企業や研究者へ広く提供する仕組みの構築を議論

平成30年度AMED研究にて実施 / コンソーシアムでの進捗確認

民間企業や研究者へ広く提供開始

その他(協議・報告事項等)

- AI技術を活用した製品の医療機器該当性に関する考え方や審査時の評価指標の明確化
- 医師がAIを活用し判断した場合の責任の所在
- 重点6領域の進捗状況 等

中間取りまとめ

取りまとめ